

◎特集1

厳冬からのおくりもの 軌跡をつなぐ岡谷スケート文化

岡谷を形容する言葉のひとつに「スケートのまち」があります。かつては最低気温が氷点下20度を下回ることも珍しくなかった冬、塩嶺から吹き下ろす風は冷たく、諏訪湖には厚い氷が張りました。日本における近代スケート発祥の地として、スケート文化の振興を担ってきた岡谷。この気候風土のなかで育ったわたしたちは、滑れることが当たり前のように、誰もがスケートに親しんできました。

温暖化の影響などで作られなくなった天然リンクに変わって、現在はやまびこスケートの森に、400m国際公認リンク「国際スケートセンター」と天候に左右されない屋内リンク「アイスアリーナ」が整備され、市内小中学校のスケート授業をはじめ、各競技の体験教室、クラブチームの練習や合宿、ファミリースケートデーなどのイベントや大会にも利用が広がり、郷土の冬を楽しむ伝統は、親から子へ、子から孫へと受け継がれています。



夢に向かって「今」をいっしょに!

アイスホッケー やまびこバスターズ

アピス岡谷リンクを本拠地に活動していた岡谷バスターズと茅野市の茅野ジュニアが、やまびこスケートの森のオープンを機に合同練習を開始し、その後1999年3月にやまびこバスターズとして新たに出発。10シーズン目の今年も、園児から

中学生まで、メンバー約50人が元気に活動しています。県内で1番新しいチームですが、県内外の大会で上位入賞を果たすなど、南信唯一のチームとして存在を大いにアピールしています。



長地小6年 中島 展くん



始めたのは保育園の年中の時。現在のポジションはゴールキーパーです。声を出し仲間に指示を出すことや、対戦相手の視線を見て動きを予測し、シュートを確実にさばくことなど、ゴールを守るチームの要として練習しています。中学生になっても続けていきますが、今シーズンは小学校最高学年なので、昨年準優勝に終わった「長野親善ジュニアアイスホッケー大会」で、自分の役目をしっかり果たし、がんばって優勝したいです。

クラブメンバー募集中!

アイスホッケーの醍醐味はスピード。ゲームの楽しさも格別です。競技経験のある9人のコーチが、初めてスケートをはく子どもから丁寧に指導します。“やる気があれば活躍できる!”それがアイスホッケー。女子中学生チームや社会人チームもあり、長く競技に親しめるのも魅力です。

問合せ●やまびこバスターズ代表コーチの有賀さん
☎090-8330-8689

フィギュアスケート やまびこフィギュアスケート教室

長野オリンピック以降、日本人選手の国際舞台での活躍などを受けて、フィギュアスケートはブームともいえる時代を迎えています。今シーズンも、園児から中学生まで50人ほどで、毎週水曜日に練習をしています。「楽しく!が練習の基本ですね」と話す村井コーチ(やまびこの森)は、小学3年生からフィギュアを始め、卒業後はシנקロススケートチームに所属、卒業後も選手として活躍した経歴の持ち主。県強化コーチとの二人三脚で選手の手育成にも努めています。



あこがれは浅田真央さん!?「練習にくるのが楽しみです。友だちもたくさんできました」とみんな笑顔で

カーリング 岡谷酸素チーム

冬季五輪のテレビ放送などを通じて、徐々に注目を集めるようになったカーリングですが、一般にはなじみの浅いスポーツかもしれません。岡谷酸素チームは、現在県下唯一の企業チームとして活躍する一方で、カーリング普及にも力を注いでいます。諏訪地方のカーリング人口は、男女合わせて100人弱といったところ。チーム数は若干減っていますが、山梨のチームなどを交え、地区リーグ戦などが開かれています。



「誰でもすぐにゲームができ、たとえ技術が劣っていても、チームワークや作戦で試合に勝つこともある」というのがカーリングのおもしろさ。氷上のチェスと例えられる所以でもあります。

岩波義幸さん



カーリング歴は14年になります。簡単にできるから…と、もとは妻に勧めていたんですが、自分の方がすっかりはまっていました。チームとしての練習は月に夜2回と日曜日1回くらいです。大会での成績や結果よりむしろ「楽しむ」というスタンスを重視して活動しています。簡単でいて奥が深く、レベルが高くなればなるほど、むずかしい頭脳プレーが要求される、それがツボでしょうか。

冬を楽しむ心を受け継いで…

スケート発祥の地、諏訪湖



スケートは、明治10年に札幌農学校（現北大）に招へいされたアメリカ人教師によって日本に渡来したと伝えられています。雪の多い札幌ではそれほど浸透せず、その後本州の寒い地方へと広まっ

て、諏訪湖には、札幌から移り住んだ田中兄弟によって明治36年に紹介されました。明治38年には中央東線が開通し、東京方面からスケーターが続々とやってきて爆発的に流行。そのなかには日本駐留の外国人も多く、華麗な滑りを見ようとさらに多くの若者が集まったといえます。

翌39年、地元有志が「^{スケート}諏訪湖氷^{スケート}会」を結成、高浜湾にリンクを設けスケート大会を開催しました。下諏訪町内のはきもの屋が下駄スケートを初めて製作すると、安価で誰でも履けるといって手軽さから広く普及し、その後、形は改良されたものの、下駄スケート主流は昭和20年代まで続きました。明治41年、同地にアーク灯が設置されると、夜間滑走も可能になり、多くの人がスケートを楽しみに



大会の余興で仮装が行われたことも

やがて靴スケートも登場

出かけたそうです。

諏訪湖氷^{スケート}会では、翌年2月、高浜を起点に湊（花岡）、上諏訪を結ぶ三角コースで、「諏訪湖二周大会」を開催。日本初のスケート競技会として各紙で報道されると、諏訪湖はスケートのメッカ、スケート発祥の地として定着し、さらに全国からのスケート客でにぎわうようになりました。

※「^{スケート}」は「滑」に同じ。当時は「雪や氷をすべる」や「障子のすべりがいい」などにこの字が使われていた。

田んぼリンクの隆盛とスピードスケート黄金時代

明治40年代には、田んぼリンクもあちこちに作られ、心身を鍛えて健康にと小学校ではスケートが授業に取り入れられました。大正



時代には、東京からスケート列車も運行され、フィギュアやアイスホッケーが盛んになりました。暖冬で諏訪湖にリンクが作れない年には、予定していた大会は岡谷のリンク（間下の堤など）で行われました。

昭和になると、スピードスケート競技で地元

選手が活躍。昭和6年、現在のインターハイにあたるインターミドル大会で諏訪蚕糸（現岡谷工業高）が優勝。圧倒的な強さを示しました。翌年の冬季五輪レークプラシッド大会には、宮沢（旧姓・潤間）留十さんが日本人スケート選手として初参加。その後も、岡谷はたくさん一流選手を輩出し、インターハイや国体での連勝時代を築きます。昭和35年のスコパレー冬季オリンピックでは、矢崎（旧姓・浜）文恵さんが活躍。有名選手の滑りが子どもたちの夢を育み、若手選手の目標となりました。



こんな時代もありました。塩嶺岡谷スキー場にて（昭和14年）

伝統の校庭リンク

長地小では、田んぼリンク時代を経て、昭和9年ごろ、校庭リンクを作った記録も残っ



ていますが、戦時体制により中断。戦後、PTAの労働奉仕により、昭和31年度に校庭リンクが復活しました。冬期は特別時間割を組んで、毎日全校生徒がスケートを練習し、寒さに負けない体づくりをめざしました。昭和32年度からは校庭のほぼ全域にリンクを拡張、同小スケート大会には、世界を舞台に活躍した高林清高さんが模範滑走も行い、父兄や地域住民も大勢観覧に訪れました。長地村が岡谷市に合併してからは「岡谷市営学校スケート場」（市営リンク）としてにぎわい、市民スケート大会も毎年開かれました。

夜間照明付が珍しく、旅行パンフレットなどにも掲載されるほどで、県内外からスケート客や視察者が多く訪れました。

◆当時のリンク利用料金 1回10円

シーズン料金 200円 市内小中学生は無料

学校では課外活動として、スケートクラブが発足。シーズン中は早朝と放課後に練習、県の大会などに遠征しました。長地小校庭リ

リンクは昭和60年ごろまで、ほかに神明小や湊小にも同時期リンクが作られていました。

駒沢スケート場

駒沢青年団によって整備されたスケート場は、40もの田んぼのあぜ越しに水を張った大きなもので、少し卵形ながら400mリンクがとれたそうです。夏明側に山が迫って日照時間が短く、天竜川から冷たい風が吹く谷間の立地で寒さが厳しく、終日滑走できませんでした。川岸小の記録に、明治45年、3年生以上の児童が駒沢氷滑場で氷滑運動会を行ったとあり、その後昭和40年代まで、長い間学校リンクとして使用されました。

● 第1回全国スケート大会開催

(大正13年1月13日)

暖冬のため、開催予定地だった諏訪湖で実施できず、急ぎよ駒沢スケート場に会場を変更。上諏訪入りしていた秩父宮殿下を同リンクに迎えて開催されました。翌年、青年団では村内企業から寄付を募り、秩父宮殿下御台臨記念碑を建立(大正15年の1月に除幕式)。この大会以降、

同スケート場は一躍有名になり、有名選手はじめ、たくさんの方が訪れてにぎわいました。昭和51年、耕地整理によりリンクは姿を消し、現在は記念碑だけが残されています。



スケート文化の輝きを胸に

戦後、市内にはスケートを製造する事業所も現れ、日本を代表するスケート靴メーカーとして名をはせました。また企業のスケート



スラップスケート

部が活躍し、スケートのまち岡谷に発展をもたらしました。スケート靴は進化し、スピードスケートでは長野オリンピック直前にスラップスケートが登場、その後主流となりました。地の精密加工技術がこうしたイノベーションにも息づいています。

郷土の歴史や文化を振り返るとき、伝統の「輝き」は、冬晴れの銀世界や星空の美しさのように、感動や勇気を与えてくれます。久しぶりに「昔とったきねづか」の人も、家族や仲間と滑りに出かけてみませんか。やまびこ国際スケートセンターは、2月22日まで営業。寒い日が続きますが、北風に縮こまることなく、元気に過ごしたいですね。

